



香美市立美術館

香美市立美術館では、竹村文男展「予科練はるか、戦後70年の画業をたどる」を開催します。

竹村文男は、31歳で高知県展無鑑査となり、高知県洋画壇のリーダーとして活躍してきました。昭和4年に高知市に生まれ、旧制高知県立高知城東中学校（現

在の県立高知追手前高等学校）に進学。その後、15歳で海軍飛行予科練習生に志願します。松山海軍航空隊に入隊した後、戦争末期に開発されたロケット戦闘機

『秋水』の特攻要員に選ばれ、長野県の八ヶ岳のふもとで『秋水』の搭乗員として厳しい訓練の日々を過ごしましたが、終戦によってその命を救われました。その時の回想が平成元年60歳の自画像に描き込まれてい

ます。戦後、復員して県職員となった彼は、仕事の傍ら、絵を描くことを心のよりどころとして、この70年を生き延びました。

竹村文男展

予科練はるか、戦後70年の画業をたどる

10月31日(土)～12月20日(日)

オープニングセレモニー

10月31日(土) 14時～

館長または学芸員による作品解説

会期中 毎週日曜日 14時～



▲平成元年60歳の自画像／竹村文男

今回の展示は、初期の抽象画から、高知県展無鑑査となった後の写実的な絵画、そして独自の境地を切り開いてきた現在の表現に至るまで、数多くの作品を一堂に展示しています。高知県の洋画壇をけん引し、大きな足跡を残してきた竹村文男の世界に触れることのできる機会です。

作品を通して、戦後の歩みを振り返ってみてはいかがでしょうか。(館長・都築房子)

奥物部美術館

奥物部美術館では、香美市在住の作家である安藤義孝の抽象画展を、抽象画の世界と題して開催します。

安藤義孝は、昭和24年に鳥取県倉吉市に生まれました。彼は幼少期のふるさとの記憶として、真っ白く降り積もった雪の中、黒い線路が真っすぐに伸びる冬景色の印象を語っています。それが、彼が後に描く抽象画の原点になっていると言えるでしょう。

昭和48年に高知大学教育

学部特設美術課程を卒業後、高校の美術教員をしながら意欲的に作品を制作し、高知県展をはじめ、郷土文化会館賞展や一陽会展を中心に作品発表を重ねてきました。

ブルーを主体とする初期の作品には、生命体を思わせるような形が数多く描かれ、細胞がうごめくようなイメージの有機的な抽象画になっていきます。

安藤が50歳になった頃から、作品

に新しい

試みが見

られるよ

うになり

ます。画

面の土台

となる木

部のパネル

そのものを

削ったの

り、火をつ

焦すな

ど、独創

的な手

を取り入

れるよう

になりま

した。そ



▲14・生命のかたち／安藤義孝

吉井勇記念館だより

溪鬼荘 国登録有形文化財記念イベント

3月に国登録有形文化財に登録された溪鬼荘を見学し、吉井勇記念館と猪野々集落を散策します。四季折々の色に癒やされた勇の心情に迫る話もご紹介し

えてお申し込みください。

【申込期限】

10月30日(金) 17時まで

【講師】

◆溪鬼荘解説 溝渕博彦さん(NPO高知文化財研究所所長)

【日時】

11月8日(日) 10時10分～15時

※雨天決行

【定員】

23人(申し込み多数の場合は抽選)

【参加費】

1人2千円(昼食代・入館料・保険料等)

【申込方法】

電話またはFAX。参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号を添

【お問い合わせ先】

吉井勇記念館 ☎58・2220

おしゃべりお茶会

記念館アーチ内に無料喫茶コーナーを設けます。秋の風情の中、お茶とお菓子を召し上がりください。

また、館内では特別企画として、永久に響けゴンドラの唄100周年展(11月30日まで)を開催中です。ご希望の方には、展示解説も行います。

■問い合わせ先 吉井勇記念館 ☎58・2220

このコーナーでは、介護予防活動のひとつとして、市内の各地区で行われている“集い”をご紹介します。

みんなで集まっています

介護予防活動

その⑭ サークルさくら



みんなで集まって運動することで元気いっぱい。楽しく運動しています。どなたでもご参加ください。

日時 毎週木曜日 10時～
場所 楠目地区老人憩いの家(土佐山田町)
内容 体操

その⑮ 楠目地区健康体操



継続は力なり(平成3年からやっています)。みんなで集まって体操することで元気いっぱいです。どなたでもご参加ください。

日時 毎週金曜日 19時～
場所 伏原集会所(土佐山田町)
内容 体操

今まで健康介護支援課の取材を受けたことのない“集い”をされている方は、ぜひご一報ください。
【問い合わせ先】健康介護支援課 健康づくり班 ☎52-9282